

平等院は宇治橋の南にあり。初は河原左大臣融公の別荘なりしが、其後陽成院此地に行宮を建られ、宇治院と号し。

又承平御門も〔朱雀院〕此所にて遊獵し給ふ事李部王記に見えたり。それより六条左大臣雅信公の所領となりしが、長

徳四年十月御堂関白此院を得て山荘とし、遊覧の地とし給ひ。其後子息宇治関白頼通公、永承七年に寺となして平等院

と号し、法華三昧を修せしむ。〔河海抄の大意〕

仏殿は鳳凰を象り、左右の高樓回廊を両翼とし、後背の廊を尾とす。棟の上に雌雄の鳳凰あり。〔金銅を以て造る〕風に随うて舞、故に鳳凰堂といふ。

本尊阿弥陀仏は、長六尺の坐像にして定朝の作なり。堂内の長押に廿五菩薩の像あり、同四壁并に三方の唐戸に浄土九品の相を画、絵師の長者為成の筆。上には色紙形ありて觀經の文を書す、中納言俊房の筆跡なり。天蓋瓔珞等は七宝を

鏤、古代の作物にして美麗莊嚴他にならびなし。〔鳳凰堂は永承年中頼通公建立より曾て回祿の災なし、南方の奇觀と

す〕釣殿觀音堂は最勝院と号す、本尊十一面觀音は立像にして春日の作なり。地藏尊不動明王を左右にして脇壇に安置

す。〔此所宇治院の釣台を建給ひて、釣を垂たのしみ給ふ所なり〕扇 芝は、源三位頼政、治承四年五月廿六日此所に

おいて自殺す。〔委は平家物語にあり〕駒繫松〔頼政馬をつなぎし所なり〕鎧懸松〔頼政鎧をぬぎすてし所なり〕阿

字池〔鳳凰堂のめぐりにある池なり、恵心僧都の作り給ふ〕鐘樓〔此鐘は龍宮より上りしといふ、園城寺の模形にし

て、本朝三鐘の其一なり〕阿弥陀水〔鐘樓の下壇の池なり、傍に六字の名号の石塔を建る〕法華水〔浄家方丈の西竹林

の内にあり」ろうもん 楼門の跡あと「今のかり橋の北にあり、焼失の後形を遺す」

抑当院は天台浄土の二流ありて、たい台家は三井寺に属し、寺務はえんまん円満院御門主なり。浄家はうちくわんぱく宇治関白の御菩提所にして、しんよ心誉上人より世々浄土宗を以て当院を守る。「方丈によりまさ頼政の鎧兜に及び画像あり」

うちのびやうどうあん平等院の寺主になりて、うちに住付て

ひえの山のかたをながめやりてよめる、

金 葉

うちがは宇治川の底のみくづとなりながら猶雲かゝる山ぞ恋しき

忠 快 法 師